

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立土居高等学校)

学校番号(3)

評価実施日		令和4年2月16日(火)	
委員	氏名	所属等	備考
	近藤 寛	四国中央市立土居中学校 校長	継続
	江口 浩二	四国中央市立土居文化会館 館長	新規
	立川 裕紀	伊予銀行土居支店 支店長	継続
	阪中 洋	福助工業株式会社 人事部長	継続
	古川 龍太郎	出雲大社土居教会 副長	継続
	高橋 芳清	土居高等学校PTA会長	新規

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 学力・進路指導 <ul style="list-style-type: none">生徒の学習態度は落ち着いており、授業にも楽しそうに参加していて満足度も高い。一人一台端末上での学習支援アプリや、電子黒板等が活用され、グループワークや生徒に作問させるなど、教員が工夫して、これからの時代に合った授業を行っている。家庭学習時間は目標に届いておらず、特に2年生での中だるみが見られる。進学に向けた学力向上には家庭学習の充実が不可欠である。就職に関しては全ての生徒が最終的には希望する企業の内定を得ており、地域からの評価も高い。	<ul style="list-style-type: none">学校マニフェストにもあるように、今後も全教職員で「分かる授業」を目標に取り組みたい。一人一台端末については、今年度はまず試してみることが目標であった。教員によってまだ取組に差があり、より効果的な活用を研究していく必要がある。家庭学習においても、一人一台端末を活用して課題を出すなどの方法を工夫し、学習習慣の確立に努めたい。インターンシップや企業訪問など、体験を重視した進路指導を続けながら、一人一人の生徒の進路実現に丁寧に関わっていく。
2 生徒指導・安全教育 <ul style="list-style-type: none">校内で出会う生徒は、外来者に対してもよく挨拶をしてくれて気持ちが良い。四国中央警察署と協定を結んだことで、合同での朝の通学指導や体験型の交通安全教室などが実施できている。SNSなどによるトラブルについては、県警による生徒向けの講座が具体的で良かったので利用してみたい。	<ul style="list-style-type: none">大声や身体接触を避けるなどの配慮が必要だが、挨拶運動や挨拶に関するアンケートを通して意識付けをしていきたい。交通安全に関する指導を一層充実させるため、PTAIにも働きかけて地域ぐるみでの取組になるようにしたい。SNS等を使用する際の責任について、校内でも指導を続けるが、外部人材も積極的に活用していきたい。
3 豊かな人間性・個性の伸長 <ul style="list-style-type: none">生徒の雰囲気は以前より落ち着いているが、コロナ禍で元気がないのではないかと心配もある。図書の一冊当たりの平均貸出冊数が年間で0.79冊となっていて、少ないように思うがどうか。生徒も教員も減っている中で部活動の数はあまり変わらず、部員不足による大会の欠場や指導者の不在が問題になっており、再編も考える必要が出てきている。ゴルフの盛んな地域であり、創立120周年を契機にゴルフ部の後援会を有志で立ち上げた。活動の支援をしていきたい。	<ul style="list-style-type: none">行事の縮小や地域交流の中止などで、生徒が元気に活動できる場面が減っている。精神面の健康にも一層気を配りたい。読書冊数は6.3冊で目標に届いているが、図書室利用の推進については委員会によるイベントなどをさらに計画したい。部活動の数が減ると一層の志願者減につながる可能性もあり、難しい問題である。高校の部活動に対する中学生のニーズも調査しながら検討したい。大変ありがたいお話であるが、現在はゴルフ部員が1名しかいないので、無理のない形で少しずつ充実させたい。
4 地域との連携・学校の魅力化 <ul style="list-style-type: none">地元で、土居高生を採用したいと考えている小規模だが待遇の良い会社が見つかるが、生徒の希望は大企業に集中しがちである。うまくマッチングする方法はないだろうか。学校ホームページの更新回数は開校日数を上回ったが、昨年度よりもアクセス数は減少した。土居高校に対しては、中学校の教員や保護者は好印象を持っているが、中学生の志願に結びつかず、市外へ流出する傾向がある。地域で中高がさらに連携する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">生徒の希望に出てきた企業については、進路開拓のため学校から問合せをしているが、企業側から生徒や保護者に説明する機会を新たに設定するなどの方がとれないか検討したい。生徒の活動状況がより伝わる内容の記事を心掛け、保護者へのメール連絡とも連動することで情報発信を充実させたい。中学生にとって身近な先輩の言葉は影響が大きいので、本校で活躍している生徒が中学生に話をするような機会が作れないか検討したい。
5 現職教育・業務改善 <ul style="list-style-type: none">教職員の時間外労働時間の減少を目標にしているが、今年度は増加している。やるが多すぎる中で、捨てるべきことは捨てる勇気を持たなければならない。中学校でも教員の時間外勤務が問題であるが、時間的に厳しくても精神的にゆとりがある場合もある。教員が仕事にやりがいを感じているかも大きく関係する。	<ul style="list-style-type: none">校務支援システムや一人一台端末を用いた業務の効率化と、教員間の適切な業務配分に取り組んでいるが不十分である。無理や無駄をなくし、さらに改善を進めたい。学校全体で目標を共有し、協力し合って同じ方向へ進んでいけるように努力する。教職員のメンタルヘルスに関しても、衛生委員会の一層の充実やS L Aの活用を図りたい。
6 その他、全般 <ul style="list-style-type: none">学校評価アンケートで、どの項目も生徒の満足度が高く、教職員が低い。学校はよく努力していると思うが、先生方は、コロナ前と現在を比較して、低い評価をしているのではないだろうか。コロナの影響が長引いており、生徒たちの高校生活から失われたものも多い。取り戻していくのが大変だと思う。	<ul style="list-style-type: none">生徒の満足度が高いことは喜ばしいが、「このくらいで十分」と考えるとさらなる向上が見込めない懸念もある。より高い目標を持たせるように刺激を与えたい。出席率や部活動加入率の低下など、学校生活全体に影響が出ている。生徒が充実した学校生活を送れるように、何ができるか、どうすればできるか、新しい方法も考えていきたい。